

青 垣

第18号 発行日 平成20年11月21日

雲南市立吉田中学校だより

一人一人が主役を演じた 秋のソナタ「文化祭」 ～芸術の秋を演出～ 生徒作品

生徒会が主催する大きな行事、吉中「文化祭」を11月16日(日)に開催し「ありがとう吉田 最高のふるさと」のテーマのもと、日頃の学習の成果を発表しました。

文化祭の準備は、限られた期間の中で行いましたが、生徒会を中心に企画運営が進むなか、生徒ひとり一人が前向きに展示作品の制作や発表練習に取り組みました。当日は、芸術の秋にふさわしい立派な文化祭を演出しました。午前の部では、地域の皆さんや保護者・家族の皆様にも、生徒の作品展示を見学していただきました。そして、地域の方々に先生に茶道を習っている生徒たちが「お点前」を披露し、来校いただいた皆さんに感謝の気持ちを伝えました。また、それと平行して、感謝祭の準備を生徒と教職員、都合の付く保護者の方で進めました。



ふるさと学習での「お点前」をお茶席で披露しました。最初の頃は上手く行きませんでしたでしたが、講師の方に分かりやすく丁寧に教えていただき、回数を重ねるごとに自信が付いてきました。

当日は、緊張をしましたがとても良い経験になりました。そして、お客様の「ありがとう」の一言に茶道を学んで良かったと感謝をしました。

文化祭に合わせ、お茶席の障子を綺麗に貼り替えて下さった渡部さん、ありがとうございました。

展示会場の多目的ホールや廊下、特別教室には「各教科」や「ふるさと学習」の時間に仕上げた風景画や木工作品、フラワーアレンジメント、手芸品、しめ縄が展示されました。生徒達のきめ細やかな作品に「すごいね」「これ、どうして出来るの」等の驚きの声も聞かれました。また、総合学習で取り組んだ、ボランティアや職場体験の様子や理科の自由研究、修学旅行の写真や緑の少年団活動の記事が展示され好評を博しました。



聴く人に“感動”を与える演奏 響く 歌声 高らかに ～新たな「伝統の息吹」を感じる～

「文化祭」午後からは、ステージ発表を行い、オープニングで、生徒会長と校長が文化祭スローガンに込められた、生徒の思いや学校の思いを伝えました。そして、平素より地域からの物心両面に渡る支援と協力に対し、感謝の言葉を述べました。

ステージでは、最初に「ふるさと学習」で練習を重ねてきた深野神楽が、田井小学校の「おはやし」の皆さんと共に上演されました。舞台上で繰りひろげられる生徒たちの舞や雅楽は、観衆を神話の世界へと誘ってくれました。そして、指導をお願いしている小田先生の太鼓の音も満足げに響き、会場からは、大きな拍手が贈られていました。



せせらぎコーラスの皆さんと教職員と一緒に歌った童謡や「上を向いて歩こう」は、会場にほのぼのとした雰囲気運んでくれました。そして、生徒代表の「少年の主張」は、聴衆にこれからの生き方を考えさせ、「英語弁論」は、吉中文化祭の品格を高め、聴く人に感嘆や驚きを与えました。

吹奏楽部は、感謝の気持ちを込めて5曲を演奏し文化の秋を演出しました。そして、本年度のメインステージ「クラス合唱」と「全校合唱」を発表しました。各クラスで混声2部合唱に取り組み、2年生は「心の中にきらめいて」を、1年生は「太陽がくれた季節、未来への飛翔」を、3年生は「旅立つ君へ」を披露しました。そして、全校合唱では、1・2年生女子がソプラノを、3年生女子がアルトを、男子生徒がテノール(男性)を担当し、混声3部合唱による「夢の世界を」堂々と歌い上げました。女子生徒の透き通るような歌声と、男子生徒の力強い歌声が互いに響き合い、合唱の素晴らしさを聴衆の皆さんに伝えていました。会場からは、生徒の熱唱に感動のざわめきと絶賛の拍手が贈られました。



生徒と保護者 教職員が調理
気持ちを込めて“感謝祭”
= 吉中ランチルームは超満員 =

文化祭当日、11時より「感謝祭」を行いました。この感謝祭は、平素から地域の皆様の支援と協力のお陰により、有意義な教育活動が実施できることに感謝の気持ちを伝えたいと開催いたしました。

感謝祭では、「総合的な学習の時間」に地域の方から指導をいただいて栽培・収穫した、コシヒカリと餅米。そして、杉戸野菜生産グループの皆さんから提供いただいた野菜と学校で収穫したサツマイモを食材に、約300人分の昼食を準備しました。

調理は全校生徒で取り組み、1年生が2種類のおにぎりを、2年生は野菜たっぷりの豚汁を、3年生は一斗五升の餅を白でつき、あん餅を準備しました。



豚汁作り

昨年までは、地域の食生活改善推進員の皆さんに、調理の中心的な役割をお願いし「収穫祭」という呼び名で実施をしていましたが、本年は、生徒と保護者・教職員で調理

をするよう計画し、名称を「感謝祭」と改め実施しました。このため、文化祭の日程を昨年とは変更し、午前は感謝祭の準備に当て、午後にはステージ発表を行うようにしました。何分にも初めてのことであり、上手く行かろうかと心配をしましたが、さすがは吉田の子どもたち、家族の方や教職員の協力を得て、予定よりも早めに調理を終えることができました。

昼前にランチルームでオープンした感謝祭には、多くの地域の皆様をはじめ、保護者や家族の皆様に来場いただきました。生徒たちは、テーブルに着いていただいた皆様一人一人に、感謝のおにぎりとお餅、豚汁を盆で運び、「ありがとう」の気持ちを伝えていました。お越しいただいた皆様には好評だったのが、心のこもった料理はもとより、手作りの箸袋と感謝の気持ちを書き込んだトレーシートでした。



おにぎり作り



あん餅作り

来場いただきました皆様には、笑顔で美味しく食べていただき、また、お礼の一言をいただき、感謝祭に携わった一同、やり甲斐と共に充実感を覚えることができました。

ありがとうございました。

そして、事前の準備から当日のお世話までご支援ご協力をいただきました、地域の皆様をはじめ、PTA役員の皆様、保護者・ご家族の皆様には衷心より感謝を申し上げます。



感謝祭・ランチルーム



接待

出雲地区新人バレーボール大会
20年ぶりの快挙 3位
~ 県選抜大会に進出 ~

第55回出雲地区中学校バレーボール大会が11月5・6日の両日、安来市伯太体育館で開催されました。この大会には、各市郡予選を勝ち上がった22校が参加し熱戦を繰り広げました。

吉中は、2回戦から登場し初戦の相手は出雲三中でした。1セットの序盤は、緊張からか2対7と出遅れましたが、徐々にサーブやアタックが決まりだし、25対16で先取。2セット目は、終盤追い上げられましたが25対21で勝ち上がりました。

準々決勝は、練習試合で互いに手の内を知り合った玉湯中との対戦でした。1セット目は、終盤激しく追い上げましたが前半の失点が響き21対25で落としました。2セット目は、序盤0対8と大きく離され、中盤でも13対19と点差は縮まりませんでした。しかし終盤、サーブとレシーブ、スパイクが噛み合い猛烈に追い上げ、24対24のジュース。最後は攻撃のミスを補う、スパイクとサーブポイントで27対25でセットを取りました。3セット目は、序盤からの3~4点のリードを守りきり、25対22で苦しみながらも接戦をものにし、念願のベスト4入りを果たしました。

準決勝では、練習試合で互角の松江二中と対戦し善戦をしましたが、残念ながら決勝戦に進むことはできませんでした。この結果、吉中は、出雲地区3位という好成績を修め、出雲・石見地区のベスト4が対戦する県選抜大会(中国大会予選)に出場することが決まりました。最後のシード順位決定戦では、練習試合で苦手としている開星中との対戦でしたが、フルセットに持ち込む接戦を演じ、吉中には大きな自信になりました。



勝利のVサイン

出雲地区大会の3位という成績は、実に平成元年の3位以来、20年ぶり2度目の快挙でした。



表彰式

